

2018年度 社会福祉法人京都ワークハウス 事業報告書

上京ワークハウス・すてっぷ糸屋事業実績報告書

定員 40名

現員 41名（男性 17名、女性 24名） 平均年齢 36.9歳

上京ワークハウス 16名 すてっぷ糸屋 25名

述べ利用者数 9,203人 開所日数の合計 266日 平均利用者数 34.6名

平成30年度を振り返って

平成30年度は報酬改定がありました。就労継続支援B型事業所である上京ワークハウスは、「目標賃達成加算」の廃止の影響を受け約250万円の減収となりました。

また、「すてっぷ糸屋」の耐震工事にも取り組みました。利用者の生命を守るためにも耐震工事は必要なため、国に申請の手続きを行い、認可をいただき、補助金を活用しての事業を行いました。業者の選定・契約を行い10月から工事に着手し、毎月進捗状況を確認しながら打ち合わせ会議を行いました。

3月には念願の安全な作業場所が完成しましたが、外壁など当初の予算を超える工事の必要性が生じ自己負担が増えました。開所日を増やすなど経営努力も行いましたが、財政的には大変厳しい状況が強いられました。

耐震工事中の対応として、上京ワークハウス本体に戻し、近隣の家屋、マンションの一室をお借りして出向しながら作業を行いました。

2ヶ所に分かれたことや、作業場としては窮屈な中でしたが、それぞれ空間や仕事の内容を工夫しながら取り組みました。「ワークハウス」と「すてっぷ糸屋」のメンバーが交流する機会も増え、にぎやかな毎日を送ることが出来ました。

今年度も、地域の中で「生き生きと働き生活する」ことを目指して取り組みを行いました。

「まんまん堂」「まんまん堂 cafe 咲あん」での仲間の接客も好評です。お客様が安心してお店で過ごしていただく場所となっています。いくつか新しいメニューも考え提供しました。

また、京都生協二条店やエリア会の方々と一緒に実施している「ふれあい喫茶」やほっとはあとセンターの事業である「喫茶ぴあ」など、各方面の方々と協力も行いました。

配食や施設外就労などの取り組みも積極的に行い、一人ひとりの評価にも取り組んでいます。

耐震工事で一時は今年度開催が難しいと考えていた「わくわくフェスタ」でしたが、地域の要望があり11月に実施しました。多くの障がいのある方々が参加できるイベントになっています。

地域の方が、バザー品を持ってきてくださることも多くなりました。

2月には、映画会を実施しました。約400名の方が来場し、障がいがあっても力強く生きる主人公や家族を描く映画を観ていただく機会になりました。両イベントでは、仲間の歌も発表しました。

上京ワークハウスの近隣の方からご意見をいただき懇談会を行いました。仲間の障害についての説明や家族の思い、事業所が地域で存在することの意義をお伝えし、地域の方々にご理解いただく取り組みを

これからも行っていくことが大切です。

職員体制では、年度当初に病欠者も出ましたが、アルバイト職員の採用を行い業務に支障が出ないように取り組みました。また、厨房職員が3月末で退職となりました。今後の蒸しまん製造面の不安があり早急に対応が求められます。

新入職員については、独自の研修計画を作成し実施しました。また、職員間のコミュニケーションや虐待防止の研修、それぞれのキャリアに添った研修の機会を提供することができました。

職員一人ひとりが、仲間にとってどのような支援が大切か？障がいの特性や発達段階を考えた支援の在り方を実践するために悩みながらも取り組んだ一年でした。

フロア毎での話し合いも活発に行いました。ケースカンファレンスや、相談支援との協力を通じて生活面の課題や加齢に伴う支援などにも取り組みました。医療機関や他事業所との連携が必要なケースが増えてきています。

所長交代に伴う措置として、副所長の役職を設け、業務の引継ぎに努めました。

次世代を担う人材育成などの課題も明確になりました。

(次年度に向けて)

社会福祉法人としては、3月末で理事長が退任されました。

事業所の誕生から35年が経ち、社会福祉をめぐる状況も大きく変化する中で転換期を迎えています。

厳しい状況ではありますが、法人に求められる責務や課題を考えながら、新しい理事長の下、関係者・家族・職員一同力を合わせ、地域の中で障がいのある方々が安心して生活し、豊かな毎日を送ることが出来るようすすめていくことが求められます。

【作業実績】

(1) 作業種目

軽作業（箱折り、ダイレクトメール、手芸用品袋詰め、朱印帳布切り他）

配食サービス（総合生活支援センター聚楽からの請負作業）

堀川こぶしの里デイサービス前清掃（総合生活支援センター聚楽からの請負作業）

マンション清掃（聚楽興産からの請負作業）

駐輪場・駐車場清掃

営業（夏・冬・バレンタインの時期に、個人・事業所対象に物品販売）

自主製品（廃油せっけん、さをり織り、縫製）

蒸しまん・クッキー・ラスク販売

Café事業（まんまん堂・カフェ咲あん）

(2) 作業時間 5時間（AM9：30～PM3：30 うち80分休憩）

(3) 利用者工賃 月平均13,998円

【利用者に対する支援内容】

(1) 作業内容

○施設外就労や出向の機会を設け、社会参加と労働への意欲向上に努める。

出向 ふれあい喫茶 (coop 二条店、月1回)
喫茶びあ (月曜日、ハートピア京都)
仏具磨き (お彼岸の季節)
営業活動 (事業所を回りカタログ販売)

施設外就労

介護事業所の配食及び事業所前の清掃、マンション清掃、駐輪場駐車場清掃

職場実習

障害者就業・生活支援センターを通じ、職場実習の取り組み

(2) 作業以外の事業実績

○自治会活動 (上京ワークハウス・すてっぷ糸屋) 月1回午後話し合い。

月1回程度、グループ活動。係り活動。役員選挙

○避難訓練 8月、2月 年2階実施 (通報・避難・消火器の使用)

○健康診断 第二中央病院にて実施。

○歯科検診 歯科センターより派遣、歯磨き指導

○宿泊実習 希望者を対象にすてっぷ糸屋にて実施。一人3回を上限。

実施期間5月～8月 延べ人数37名

○うたごえ 指導者に来ていただき、上北うたごえまつりに参加。わくわくフェスタ、映画会で披露

○余暇支援 サークルすまいる (祝日を利用して希望者を対象に取り組みを実施)

いちご狩り、カラオケ、クッキングなど

(4) 利用者負担金

○所外活動での飲み物、食事代は実費

○旅行積立金 月2000円

○給食の提供 (週一回 希望者のみ) 400円 (10月～3月までは耐震工事のため休み)

(5) その他

○後援会活動 わくわくフェスタ (11月11日、元聚楽小学校にて)

○家族会活動 新入職員歓迎会、きょうされん京都大会ボランティア、すてっぷ内覧会、小大門町町内の方との懇談会に役員参加、合同懇親会、家族会

○つうしん発行 作業所だより発行。発行部数1000～1200部

○きょうされん活動 9月21日、22日全国大会 (京都) への参加 仲間、職員、家族、理事 市内ブロック仲間の交流会参加、署名・賛助会の取り組み

指定特定相談支援事業

今年度は、40件の計画・モニタリングを実施しました。

計画相談は、月ごとに予定表を作成し、チェックしながら業務をもれなく取り組めるようにしました。利用者全員に受給者が発行され、サービスを受けていただくことができました。但し、計画提出期限に間に合わずに、行政やご家族から問い合わせをいただくケースが数回ありました。

書類整理に関しては、11月の実地指導時に一定取り組みました。

自立支援協議会での相談員カフェ等から他の相談事業所の情報を少しずつ収集しています。業務の効率化につなげるよう抜本的な改善が必要です。

他のサービス事業所等との連絡調整については、生活面や医療面での申し送りが多く、重要な業務となりました。また、居宅事業所の閉所やヘルパー派遣の終了の連絡等が増え、新たな事業所を探してサービスを継続する事案が数件ありました。

○本人主体のプラン作りは、「本人・家族の声に耳を傾けること」を第一に家庭訪問や面談を行い、サービス提供の事業所からの情報収集をし、関係者会議での意見交流を反映させながら、案⇒確定版を作成してきました。文章が長く、わかりにくいという面、作成に時間がかかるなど課題もあります。

研修や、他の事業所を参考にして、計画作成の8つの視点をより深めつつ。簡潔で分かりやすい計画書にしていく必要があります。

○相談支援では、他の機関との連携が重要な生活支援の事例がありました。

住居の移転、入院や疾患管理、緊急ショート、通院の付き添いなど本人・家族の基本的な生活や心身の健康（命）を守り、安心してこれまでの生活や日中活動が送れるように、支援を行いました。

一方、現状の厳しさ（制度の制約・低報酬などの矛盾・障害者への差別、偏見）憤りややり切れなさも感じましたが、本人・ご家族の「よかった」「ありがとう」の笑顔に励まされる日々でした。

法人内の日中事業所や暮らしの場の職員との連携、協働（役割分担）は欠かせず、今後も引き続く実践課題です。平成30年度報酬改定では、就労継続B型事業所や共同生活援助（グループホーム）の報酬が引き下げられました。同様に計画相談単価の引き下げ（経過措置あり）、加算方式が導入されました。その対策については、算定要件に制約もあり、ほとんど実施出来ていません。経営に直結する報酬引き下げで運営の厳しさが増していくことは避けられません。しかし、その厳しさに頭を垂れることなく、より学習や支援者のつながりの強みを生かして、仲間（本人）が主人公の生活を送れるように粘り強く実践を積み重ねていきたいと思えます。

平成30年度 “グループホーム” あつと” 事業実績報告書

定員	女性	4名				
入居者	女性	4名	平均年齢	43.5歳		
延べ利用者数		1175名	開所日数	319日	一日平均利用者数	3.7名
世話人体制	非常勤	10名	(週1～2階 隔週 日中支援など含む)			
	常勤	1名	(受け入れ準備、通院同行、夕方支援補助、勤務調整等)			

今年度は、グループホームのスプリンクラー設置義務に伴い、15年間過ごした一軒家から“まある”が入居していた堀川出水団地へ移転引っ越しをしました。今までは2階の居室で上り下りが大変だった入居者の身体的負担の軽減や、トイレが増えたこと、各居室の改善など生活環境の改善が図られました。何よりもスプリンクラーが設置されたことで安心して過ごすことが可能となりました。

また、移転に伴い女性のためのショートステイが可能となり体験してみようという方も増えました。各個人の部屋については、生活支援の職員とともに掃除を行うなど整理整頓に努めようとする仲間がいる一方で、さわってほしくないという仲間もあり、支援の難しさを感じました。居室内が物であふれて転倒の危険も考えられるので、今後は計画的に大掃除を行う必要があります。世話人の確保については、4名の退職や7名の入職であわただしい1年でした。また、前年度に比べ、日中の現場職員が泊まり勤務に入ることは減りましたが、学生の世界人が多く、勤務希望日の調整が難しく担当職員が苦勞することが多くありました。

仲間は、長年支援してくれた世話人との別れや、新しい世話人との関係づくりで不安となることもありました。世話人も、どのように接すればよいか悩みながら実践を行う日々となりましたが、「仲間が少しずつ慣れてくれてうれしい。」「難しいけどおもしろい。」という感想もだされ、世話人としての育ちや意識の変革を感じました。

地域との関係では、女性の利用者のホームになって近隣とも良好な関係が築けています。

入居者同士の関係では、2対1の関係が深まり「自分は、仲間外れにされている。」と悩み、作業所やホームに来れなくなり「ホームをやめて一人暮らしがしたい。」と考え始める仲間がありました。また、作業所が終わってからの過ごし方で、帰宅時間が遅くなったり、仲間同士が依存的になる傾向が出たり、思いのすれ違いや不安定になることもあり、日中支援の職員と連携しながら取り組む必要性を強く感じる一年でした。

こだわりの多い仲間で、今まで布団で睡眠を取るのが難しい方が、好きな仲間がショートステイを利用することで一緒に布団を敷いて休むことが出来るようになる変化もみられました。

また、家族の病気でホームの土日開所を行い、ホームがあつて助かったなどの声が聞かれました。仲間・家族の高齢化もあり、心身の不調を訴えることも増える中、医療機関など関係機関との連携も一層必要となります。今後、365日開所が遠い先のことでなく、近々の課題であると認識することとなりました。

平成30年度 ショートステイ“あつと”実績報告書

登録者数 10名 利用状況 9名 延べ人数 187名

年度開始当初は、曜日を固定し行ってきましたが、ショート開所日は世話人を2名体制とするため、世話人の確保などから、曜日は固定せず実施してきました。

今年度より女性のショートステイとなったことや利用日が増えたこともあり、今まで利用しにくかった方も体験を希望されました。家族も子どもと離れて過ごすことで、親の介護やリフレッシュの時間を持つことが出来ました。また、家族の入院で連泊される方もあり、利用される方が定着してきています。また、定期的な連泊の希望もあり自立に向けた場所となっています。

平成30年度グループホーム“まある”事業実績報告書

定員	男性	6名			
入居者	男性	6名			
延べ利用者数		1635名	開所日数の合計	305日	一日平均利用者数5.3名
世話人体制	非常勤	9名	(週1～2回、調理支援他)		
	常勤	1名	(管理者、受け入れ準備、通院同行など)		

今年度は、グループホーム“あっと”のスプリンクラー設置義務に伴い、堀川出水団地から新たに移転場所を探すことになりました。移転に関しては、物件確保が難しい中、外部の方に入ってくださいチームを作り進めてきました。地域の不動産業者、建築設計事務所と一緒に障害のある方の住まいの場について考えを出し合い、検討しながらホームが完成したことは大きな意義がありました。

入居者も4名から6名に増やすこととなり、世話人体制を基本2名とし支援にあたってきました。また、食事作り専門の世話人も配置し、支援体制の充実を図りました。

人数が増えたことで風呂も1階と2階にあり、生活環境は改善され、大きな混乱もなく過ごすことが出来ています。

世話人の確保については、退職が3名、入職が8名でした。学生の世話人が多く、授業等の関係で勤務表の作成が難しいこともありましたが、前年度に比べ日中の現場職員が泊まり勤務に入ることは減りました。仲間の支援面では、入居者が増えたことで衣類の管理が難しくなり、持ち物に名前を記入してもらうようにしましたが、改善が難しい状況です。服薬管理については、基本的には自分で管理できる方は自分で行っていただいておりますが、薬が余ることがあり、定期的な在庫確認が必要となっています。

仲間の様子では、言葉の少ない方の言葉が増えたり、入浴や着替えの難しかった方が関係機関とのやりとりの中で、スムーズにできるようになってきたことは、世話人や職員の喜びにつながりました。

また、誕生会やクリスマスなどいろんなイベント毎で楽しい時間を共有して過ごしています。近隣との関係で、ごみ箱を勝手に移動させる、敷地内に入る等の苦情があり、世話人や職員の見守りを続けています。日中職員と連絡を取りながら、引き続き見守りを行うとともに地域住民との懇談の場を設け理解が得られる取り組みが必要です。

平成30年度ショートステイ“まある”実績報告書

登録者数 6名 利用状況 5名 延べ人数 154名

年度開始当初は、曜日を固定し行ってきましたが、利用者が4名から6名に増えたことや2階建ての為、利用者の把握が難しくなり、ショート利用の際は世話人2名体制で曜日は固定せず実施しました。新しく開所したホームでのショートステイとなり、利用される方はほぼ定着しています。生活面で課題がある方も、世話人さんとの関りや、食事・入浴・テレビ鑑賞を楽しみに利用が増えました。また、利用当初、朝パニックとなり落ち着けない状況の方のパニックが減ってきました。関りの少ない仲間がショートを利用する際、情報共有が十分できない点があり世話人さんから改善が求められました。